

平成26年5月25日

軽井沢町議会

議長 篠原 公子 様

社会常任委員長 大浦 洋介

## 行政視察実施報告書

1. 日 程 平成26年5月21日（水）～22日（木）

### 2. 視察概要

- ①視察場所 長野県下諏訪町 御田町商店街  
視察目的 空き店舗の解消に向けた取り組み等を調査・研究するため。
- ②視察場所 長野県佐久市 佐久医療センター  
視察目的 佐久医療センターの果たす役割（同センターの救急医療態勢及び診療機能）について学習・調査するため。

3. 参加議員

委員長	大浦 洋介
委員	川島 さゆり
委員	佐藤 幹夫
委員	柳澤 講次郎
委員	土屋 浄
委員（副議長）	土屋 正治

4. 同行職員

観光経済課長	佐藤 久男
病院事務長	土屋 次男

5. 随員職員

議会事務局	佐々木 真利
-------	--------

## 6. 視察内容（視察目的）

### ①長野県下諏訪町 御田町商店街

当該商店街は、製糸業の衰退や規模の縮小、移転などにより、通りを行き来する人は激減し、全国的な商店街低迷の例に漏れず、10年前には3分の1の店舗が空き店舗となっていた。それが今では空き店舗が一軒もない商店街として、それも空きがあれば入居したいという入居希望リスト、所謂「ウェイティングリスト」まで出来る盛況ぶりである。

そこで今回の視察では、駅（中軽井沢駅）周辺地区の整備が終わってもシャッター街化に歯止めが掛からない中軽井沢地区の空き店舗をどうやって解消していけるかを調査・研究をすることにした。

### [考察]

シャッター街と化していた御田町商店街を僅か10年足らずで、入居者のウェイティングリストが出来るまでに活性化を再創出できた背景には、「何が何でも商店街のシャッターを開けて空き店舗を無くすんだ」という強い思いを持ち続けた「女将さんたち」の存在がある。「女将さんたち」は御田町商店街がシャッター街化を加速させていた1998年（16年前）に「みたまち女将さん会」を結成し、空き家の家賃交渉や移住してくるよそ者の生活サポートなど、「御田町商店街全体で事業をやる」という、本来受け手になりがちな対象者（店主や工房主など）の気持ちを、主体性を持つ「主役意識」に変えるなど、事業推進の円滑化に大きく貢献してきた。

また、3年前には女将さん会の呼びかけでよそ者も多数参加する「御田町商業会青年部」が発足し、青年部の活動もあってここ数年だけでも20を超える店舗や工房が開業している。町全体の中で「よそからやってきた店主」が占める割合がどんどん増える状態となっているが、時代の変化

を見据えた生き残り策（時代の変化を恐れない商店街づくり）が若いよそ者の手を借りて成功していることだけは確かである。

若し中軽井沢地区が、御田町商店街のように空き店舗を解消して活性化を創出できるとすれば、それは、「おせっかいな女将さんたち」に代表されるやる気のある人材を区内でどう確保し、また、それを支える支援機関をどう形成していけるかに掛かっている。もとよりよそ者をおもてなしの精神で受け入れていく姿勢も大切である。

## ②長野県佐久市 佐久医療センター

当該医療センターは、今年3月に佐久市中込にオープンしたばかりの、専門医療と2次・3次救急急性期医療に特化した病院である。このような医療センターが佐久地域に整備されたことは、同じ佐久地域に住む者として大変心強い限りである。とはいえ、軽井沢町に住む皆さんから当該センターがもつ機能や仕組みについて問われたとき、残念ながらそれに答えるだけの十分な情報を持ち合わせていないのが実情である。

そこで今回の視察では、佐久医療センターの救急医療態勢及び専門的な技術を必要とする診療機能を中心に、同センターの持つ機能や仕組みについて学習・調査することにした。

### [考察]

我々の視察を歓迎し説明に当たってくれたのは、今年の2月まで軽井沢病院（脳神経外科）で毎月1回診察していた渡辺仁病院長である。病院長によれば、当該センターは大きく分けて4つの機能を持っており、中でも重篤な救急患者に対して、高度な救命救急医療を24時間かつ横断的組織体制で提供できる機能をはじめ、脳卒中・循環器病センター機能、がん診

療センター機能と、専門的医療機能、高機能診断など地域医療を支える6つの特徴について分かりやすい説明を頂いた。

説明終了の後に、院内を隈なく案内してもらったが、参加委員の感想（院内の感想）を最大公約数的にも元宰相に倣って一言で表現するなら、「感動した」「吃驚した」と形容する以外形容し難いほどの、見学者の目を疑うばかりの素晴らしい施設であった。南北に200m、東西に100mもあるこの巨大視察がもつ高度な医療技術の全貌を理解することは不可能としても、視察前に比べればどの委員も、少しは自信を持って佐久医療センターの機能と仕組みについて語れるようになったのではなかろうか。